

令和3年度 研究助成審査会選考結果

助成期間 令和3年7月6日～令和4年3月31日

京友会令和3年度研究助成事業について、鳶野克己委員と石井英真委員により審査が行われた。応募は9件あり、申請書にもとづいての審査を行い、研究目的・研究計画・助成金の用途・研究業績書・指導教員の推薦書の記載にもとづき、研究内容の説明の明瞭性や研究計画・助成金の用途の妥当性などを協議した。

その結果、研究的な価値が認められ一定の水準に達していると判断された8件について採択し、1. 研究計画に示される研究方法についての明瞭性、2. 申請された助成金の用途の研究計画に対する妥当性、3. 募集要項に対する申請内容の妥当性、などを考慮し、予算上の上限額の範囲内で配分の判断を行った。

2021年6月3日 審査委員 鳶野克己・石井英真

助成者	学年	講座	指導教員名	研究課題
ニ ン 倪 楠	D1	教育認知心理学講座	齊藤 智	ワーキングメモリ・トレーニングによる「負の効果」の検討
ニシワキ ミオ 西脇 彩央	M2	教育・人間科学講座	田中智子	在外公館と留学生—明治期米国の場合—
オン シュウエイ 温 秋穎	D1	教育社会学講座	佐藤卓己	近代日本対中情報活動における中国語の運用—外務省官僚・岩村成允の中国語実践を例として
ニシオカ マユミ 西岡 真由美	D3	教育学環専攻 臨床心理学コース	岡野憲一郎	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大が糖尿病患者の心理面に及ぼす影響—周囲の人々との関係性に着目して—
ヒツフリ ジンペイ 櫃割 仁平	D1	教育認知心理学講座	野村理朗	俳句鑑賞中の感情の揺らぎが審美性評価に与える影響
ワタナベ コウダイ 渡部 晃大	M2	教育社会学講座	竹内里欧	シングルマザーの「再婚」への意識に関する社会学的研究
イマムラ コウイチロウ 今村 光一郎	M2	教育社会学講座	竹内里欧	学習の場としての男性運動
ソン シオン 孫 詩榕	D2	教育認知心理学講座	楠見 孝	The Effect of Trait Schadenfreude on Episodic Schadenfreude Based on Narcissism (自己愛人格に基づくエピソード的シャーデンフロイデに及ぼす特性シャーデンフロイデの影響)

令和2年度研究助成事業助成対象者コメント

－助成を受けて－

梶 楠

このたびは、令和3年度京友会研究助成事業に採択いただき、誠にありがとうございます。私はワーキングメモリを含む認知機能のトレーニングを中心に実証研究を行っています。

私たちを取り囲む生物・社会環境に柔軟に適応するためには、様々な認知機能が必要となります。そのため、認知機能を高めることで環境に対する適応を高める試みが長年に亘って続けられてきました。その中で、最も基礎理論が頑健で、実証的検証が豊富な分野は、ワーキングメモリのトレーニングです。

ワーキングメモリ（作動記憶または作業記憶と記されることもある）とは、容量に制限を持ちながら、情報の一時的な保持と認知操作を行う動的なシステムであり、知能や問題解決などの高次認知と強く関係しています。したがって、ワーキングメモリをトレーニングすることで認知機能が強化されるという期待が高まっています。しかし、これまで20年間の研究のメタ分析では、ワーキングメモリ・トレーニングの効果が極めて限定的で、ワーキングメモリ以外の課題成績（高次認知課題や知能検査など）の向上がほぼ見られていません。

更に、新しい理論からは、トレーニングによって、後に行う別の課題の成績が低下するという「負の効果」も予測されます。そこで私はこれからの研究では、このトレーニングの「負の効果」に焦点を当てて検証を行い、トレーニングによる認知機能の変化のメカニズムを解明したいと考えています。

貴重なご支援をいただいたことに改めて深くお礼申し上げます。いただいた助成金は、実験・調査の費用に活用させていただきます。本研究によって得られた結果は、学会発表や論文執筆により報告いたします。

西脇 彩央

この度は、京友会研究助成事業にご採択いただき、誠にありがとうございます。私は明治期の日本人米国留学生について研究しています。当時の留学生に関する研究は様々ありますが、私は、在米公館（公使館や領事館等）と留学生との関係に、特に注目して研究したいと考えています。

明治期の米国留学生は、日本の近代化を進める上で重要な推進力であり、政府も留学政策・制度を整えていきます。しかし実際には、政府の政策や思惑と、留学の実態に齟齬が生じる場合があります。そんな、政府の管理が行き届かない現場の留学生に対応したのが、公使や領事をはじめとする在米公館の外交官たちです。現代と比べ、明治期の米国留学は、不明点や不安定要素が遙かに多くあります。日本からの送金は不安定であり、そもそも、どのような学校があるのかさえわからない状態で渡米する者もありました。そのような留学生に対し、在米外交官は金銭支援を行ったり、修学に関する指示を与えたりしました。制度上は、明治期の留学生管理は基本的に文部省が担い手であり、外務省や外交官の職掌ではありません。しかし、当時の留学生にとって、現地で頼れる在米公館の存在は大きかったはずで、留学生と外交官はどのような関係を築いていたのか、その関係はどのような意味を持つのか、検討していきます。

いただいた助成金は、史料調査の費用に用いさせていただきます。貴重なご支援に改めてお礼申し上げますとともに、これを励みに研究に邁進する所存です。

温 秋穎

この度は、京友会研究助成事業に採択いただき、誠にありがとうございます。

私は、近代日本の情報空間における中国語という言語の受容、および中国語の情報空間の変容に関心を持っており、「中国通」の外務省官僚・岩村成允を中心として研究を進めています。

中国語が運用される情報空間は、幕末には唐通事を継承する通訳型情報収集者により構築されていましたが、明治時代に入ると、各省庁に情報活動を従事する専門職が設置されていきました。そのなかで、政治的な発言を残していないとみなされがちな言語専門の外交官たちでも、基礎的な情報収集・翻訳の作業だけでなく、実は実際の外交交渉や対外宣伝・説得においても必要不可欠な存在なのですが、いままで、彼らを糸口とした近代日本の情報活動と言語使用の関係については十分に研究されておられません。

「中国通」の外務省官僚の岩村成允は、明治時代から30年以上わたって外務省に勤め、領事・通訳官として日中交渉の最前線で活動してきた人物です。外務省の情報活動において彼の中国語実践がいかに行われ、その活動がいかなる理念に基づき、また日中関係にどのような影響を与えたか、以上が本研究の注目点になります。岩村の言語観と対中認識の形成を追究するために、まず、中国語で書かれた情報がインテリジェンス空間で伝達される通路（翻訳・通訳・メディア）への着目から始めます。

いただきました助成金は、資料収集のための費用にあてる予定です。本研究で得られた結果は、学会発表及び論文執筆の形で発表いたします。温かいご支援をいただきましたことに改めて感謝申し上げますとともに、有効に活用できるよう研究に邁進する所存です。

西岡 真由美

この度は、令和3年度京友会研究助成事業に採択していただき、誠にありがとうございます。

私ども糖尿病心理臨床研究会は、糖尿病を抱える人々（以下、糖尿病患者）がどのような思いで病とともに生きておられるのか、ということ、調査やインタビュー、描画を描いていただくことを通して探索してきました。糖尿病は、病気が進行するまで自覚症状がないにも関わらず、食事や運動をはじめとした療養上の努力を求められる病気です。病に起因する心理的苦悩の存在も様々報告されています。

2019年12月から世界を覆っている新型コロナウイルス感染症ですが、糖尿病患者は感染すると重症化するとされており、糖尿病患者やその周囲の人々の不安や緊張はそうではない人々に比して高いことが推測されます。また、感染を避けるためにソーシャル・ディスタンスを保つことが推奨されており、平時に比べて他者との接触が少なくなったり、逆に家族と一緒にいる時間が増えたりと、糖尿病患者を取り巻く人との関係性にも変化が生じたと思われます。糖尿病を抱えて生きる中で、他者との関係性の変化がどのように体験されたのか、また、療養にどのように影響があったのか、調査を通じて明らかにしていきたいと思っています。

いただいた助成金は、調査協力者への謝金、通信費、関連資料の購入等に充てさせていただく予定です。本研究の成果が、糖尿病患者の理解を深め、医療との橋渡しとなり、「いのち」の現場に貢献できるものとなるよう、研鑽して参りたいと思います。

櫃割 仁平

この度は京友会の研究助成事業に採択頂きまして、誠にありがとうございます。私は、世界最短の詩と言われる俳句を題材にしながら、人が芸術に対してどのように美しさを感じ、評価するかを研究しております。専攻は認知心理学という学問になり、俳句鑑賞中のメンタルイメージや感情に注目した研究になります。修士課程の際に行った研究では、メンタルイメージの鮮明度が俳句の評価に繋がったり、ポジティブ感情が俳句の美的

な魅力を高めたりすることを発見しました。しかしながら、芸術体験の面白いところは、ネガティブな感情であったとしても美しさに繋がりうる場所です。悲しい音楽を好んで聴いたり、怖いと分かっているのにホラー映画を楽しんだりするのを想像してもらおうと分かりやすいかもしれません。故に本研究では、そういったネガティブ感情やネガティブとポジティブが混ざり合った感情が俳句の美的評価に与える影響を検討したいと考えております。具体的には、実験参加者の方には、俳句が表示されたパソコン画面の前で、ジョイスティックを操作してもらい、ご自身の感情状態を鑑賞と同時に報告してもらおうということをします。そんな感情状態の揺らぎともいえる、変化過程に美しさの源泉を見出したいと考えております。俳句は、17文字というとても小さな世界で美を生み出すとても興味深い題材です。小さい世界故に、生み出す感情は時に曖昧となりますが、それが本研究の目的に最適だと考えています。

渡部 晃大

この度は、助成に採択してくださり、まことにありがとうございます。助成に採択していただけることによって、自分の研究テーマに自信をもつことができ、今後の研究の励みとなります。

これから研究していきたいことは、「シングルマザーの『再婚』への意識」についてです。結婚の理由として、「お金のため」などといったことがよく言われます。それが、経済的な困窮の問題を抱えているとしばしば語られるシングルマザーの方であれば、経済的な面を意識していると想定するのは容易です。

しかし、「再婚」に向けた意識をそのような経済的な側面のみで片づけてしまっているのか、というのが私の問題意識です。私が所属している研究室は教育社会学を専門としているところですが、ともすれば、「当たり前」「そういうもの」という言葉で片づけられてしまいそうな現象を丁寧に切り崩すことができることが社会学の魅力の1つであると考えています。社会学的な概念も用いながら、「再婚」の背景にあるものを言語化することができればと思っています。

調査として、インタビュー調査を中心に行っていこうと考えています。実際に、再婚を経験した女性の方にインタビュー調査を行うことで、私がこれまで勉強してきた「ステップファミリー」の研究とも、接続させたいと考えております。

研究は暴力的なものです。しかし、この度助成をいただくことで、心の余裕を持って研究に取り組むことができればと思います。

今村 光一郎

教育社会学研究室に所属する修士課程2年の今村と申します。この度、貴重な助成金を使わせていただける事になり、感謝申し上げます。教育学部同窓会（京友会）の支援を受けて研究ができることに、身の引き締まる思いでいっぱいです。

私は、反暴力・ジェンダー平等の理念をもつ現代日本の男性運動をフィールドに、男性たちの社会運動内部に見受けられる学習の動機と、中年期以降の男性性の捉え直しの過程を研究しています。学部生時代に抱いた、「中年は教育・学習の主体とみなされにくいのではないか」という問いに

運動の意義・意味を解釈する研究の潮流である「新しい社会運動論」の立場から、これまで社会運動や社会変革の担い手としてあまり想定されてこなかった中年男性にとって、あえて男性の立場を明確に自認して暴力・ジェンダーの問題に取り組む意義・意味はどのようなものか、研究してまいります。具体的な研究手法は、令和2年度以来続けているフィールドワークと、フィールド内の男性たちに行うオンラインのインタビュー調査が中心です。既存の中年男性イメージに揺らぎをもたらすような新しい知見をもたらします。

助成金の使途としては、フィールドワークに赴く際の交通費、インタビューへの謝礼、および社会運動研究の書籍の購入費に充てる予定です。助成いただいた諸先輩方の期待に応えられるよう、全力を尽くして研究に邁進いたします。

孫 詩榕

このたびは、今年度の京友会研究助成事業に採択いただき、誠にありがとうございます。

私の研究焦点はシャーデンフロイデと関係性攻撃傾向です。我々は、他者の不幸を知った時に、喜んでしまうことがたまにあります。日本における“他人の不幸は蜜の味”という経験は、欧米では“シャーデンフロイデ” (Schadenfreude)と呼ばれています。その一方で、反社会的なパーソナリティ特性 (Dark Traid) の結果と考えられる関係性攻撃は、シャーデンフロイデという感情の促進因子でもあると報告されています。しかし、シャーデンフロイデを感じる傾向もまた関係性攻撃傾向を促進していると考えられます。人が日常の中で不公平を認識したり、望ましくない結果を経験したりすることから、怒りや恨みが生じ、それらが間接的に他人を傷つける引き金になるかもしれません。こうした行動の背後にある心理的なメカニズムを解明し、その抑制方法を開発することができれば、自分自身の不満や恨みによった関係性攻撃の行動 (学校やネットいじめ) の予防が可能になると期待されます。

このような観点から、本年度は、日本語版シャーデンフロイデ尺度の作成及び 関係性攻撃に焦点を当てたモデルの検証を行う予定です。頂いた助成金は、オンラインで行われる調査や実験の費用に活用させていただきます。本研究によって得られた結果は、学会発表や論文執筆によって報告いたします。